

らしっく

自分らしく、粋な暮らし

2005.12
団楽号
Vol.13



らしっくは、自分らしく、
粋な暮らしを目指す人たちを
応援する情報誌です。

広島市まちづくり市民交流プラザ情報誌

「伝える」 ドドジレっぺ

ASA ZOOボランティア
広島市植物公園ガイドボランティア
江波山気象館サイエンスボランティア
おはなし会ボランティア
ヒロシマピースボランティア

ひろしまぐるっと八区

(安佐南区 沼田町)三城田神楽団



らしっく

広島市まちづくり市民交流プラザ情報誌

「らしっく」は、自分らしくの“らしく”と
粋(な)という意味の“シック(chic)”
を合わせた造語です。

2005.12
団楽号
Vol.13



タイトルの「団楽号」には、
まるで家族のような
広島市民同士の絆を感じとってほしい…
との思いを込めています

2 ビビッとしくに

ASA ZOOボランティア
広島市植物公園ガイドボランティア
江波山気象館サイエンスボランティア
おはなし会ボランティア
ヒロシマ ピース ボランティア

8 ひろしまぐるっと八区

(安佐南区) 三城田神楽団

10 よりみちデポ

観音公民館

12 おもしろPレポート

中国電力株式会社

14 おもしろPスポット

コンサート

15 らしっくCafé

映像で学ぶ子どもの世界

16 Hキャンパス

楽々カレッジ広島

18 達人図鑑

テーブルコーディネーター 高橋道子さん
アロマセラピスト 内山純子さん・坂本亜矢さん

20 まちづくり学校

「基礎編で学んだことを生かす」の巻

22 Hm² 通信

ふむふむ参加団体活動レポートの巻!

24 プラザ通信

26 らしっく情報の森

29 らしっく広場

30 てくてく街道散歩

(南区) みなみ区回遊ルートマップ

ルードと一緒に演奏したらおもしろいのでは？」という話になったことから、独学ながらフルート歴33年の光本さんも、アンサンブルとして出演することになりました。

会場は、築100年になる古民家。見た瞬間に「ここでやるしかない」というインスピレーションがわいたのだそうです。8月20日に行われた「音楽の集い」には、160人近くの人が訪れました。予想以上の反響で、急きよ2回公演にするなどうれしい誤算の中、ふるさと演奏会は和やかに幕を閉じました。当日は雨模様だったのですが、「雨音と風の音と音楽が相まって、ステキな時間を過ごせた」と観客に好評でした。

光本さんに「改めて感じる湯来の魅力は？」と尋ねました。すると「都会での生活を経験しているから、自然環境と人の温かさが余計に身に染みます」という答えが返ってきました。コンサートは年1回、夏の終わりに定期的に開く予定だそうです。

若かりし頃は、国立環境研究所で地球温暖化について研究するサイエンティスト。客員研究員として渡米し、ユネスコのバンコク支部にも勤務したという、国際人でもありました。昔から「定年退職後は、湯来に戻つてのんびりしよう」と思っていたそうですが、定年より少し早い53歳から、ふるさとでの第二の人生が始まりました。

4月のある日、晴耕雨読を旨とする光本さんの生活に変化が訪れました。湯来町が広島市に合併することを記念した「さよなら湯来町コンサート」を見に行った時のことです。演奏者であるソプラノ歌手隅川幸江さんの「最初で最後のコンサートです」という言葉に、驚きました。湯来出身であるという隅川さんのことを、まったく知らなかったからです。地元こんななすばらしい人がいるのに、地元ではコンサートを二度も開いていない。地元住民が、地元について知らない。そのことにショックを受けたのです。「湯来の魅力を、地元の人にもっと知ってもらいたい。たまたま隣に座っていたピアニストの吉野妙さんと意気投合した光本さんの思いはどんどん加速し、4月末には「湯来に住むプロの音楽家の手で、音楽会を開こう」という計画が動き出しました。

着々と進む準備の中で、安佐北区可部町に住む琴奏者、立川淑恵さんとの出会いました。「『春の海』を琴とラ



愛娘のムイ・マイと一緒に



琴を演奏する立川さん



光本さんのフルート演奏



吉野さんは電子ピアノを演奏



コンサート会場となった古民家「ギャラリーふう」



遠方からもたくさんの人が聴きに來られました

暮らし

自分らしく豊かに、でもちよっぴり
こだわって……。ついでにまわりのみなさんも
巻き込んで、ゆつくりたっぷり楽しんじゃお！
暮らしっくでは、そんなふうにならなうに広島で
スローライフを楽しんでいる人を紹介します。
今回は田舎暮らしを満喫しながら、
湯来の魅力発信に余念がない
光本茂記さんの活動を紹介します。



植物公園で行われた講習会で、大温室の上から植物を観察するボランティアの皆さん。
個人での植物の勉強も欠かしません

植物公園では平成13年(2001年)、入園者に植物の魅力をより分かりやすく伝えるため、ガイドボランティアによる植物の解説をスタート。平成17年(2005年)現在、総勢60人で活動しています。募集は「ひろしま市民と市政」などを通じて不定期に行われ、5回の養成講座が修了すると、通常は月に2回の当番制で活動に参加します。

当初は温室に限られていた解説も、「楽しかった」と好評だった入園者から、屋外の解説も希望する声が多く寄せられたことから、ガイドボラ

天井に設置された数多くの鉢から、シヤンデリアのように咲き乱れる美しい花々。広島市植物公園のベゴニア温室では、2000株を超える鮮やかな花を1年中楽しむことができます。「片

植物の魅力を自分たちの言葉で 広島市植物公園ガイドボランティア

思いこというベゴニアの花言葉が、左右対称ではない葉の形に由来していることを教えて下さったのは、広島市植物公園ガイドボランティア、米田宗雄さんです。

「20代から80代まで、大好きな植物を通じて和気あいあいと活動しています」と話すのは、ガイドボランティアの構想時代からメンバーに加わり、自らも4年のガイド歴を持つ藤井かおりさんです。「自分たちの言葉で、より分かりやすい解説」をモットーに、さまざま



「ガイドはとっても楽しい」と米田宗雄さん



笑顔の花を咲かせる藤井かおりさん



絶滅危惧植物の解説をする一橋賢三さん



ボランティアの信頼も厚い企画広報係の山本昌生さん

な植物に関する膨大なテキストも、コツコツと自分たちの手で作り上げてきたそうです。

一方、植物公園管理課企画広報係でも、2カ月に1回の例会、ボランティア通信、活動日誌などを通して活動を協でしっかりとサポートしています。職員とボランティアが参加して行われる意見交換会も、時には冗談が飛び交う和やかな雰囲気

Information
広島市植物公園
☎082-922-3600

ビビッとアンテナを張り巡らせている人は、いつもvividに(イキイキと)生きています。そんな方々のchic(粋)な活動をご紹介しますこのコーナー。さあ、あなたもビビッと、しっくに暮らしてみませんか?



「伝える」

一見簡単そうで実はとても難しい、誰かに何かを伝えること。今回は、その大変さや、伝わった時に得られる大きな喜びを数多く経験した人たちの活動を追います。

普段発見できない動物の魅力を伝えたい ASA ZOOボランティア



「レッサーパンダのウンチのにおいはね〜」普段体験できないことも、ボランティアの解説で体験できます

昭和46年(1971年)に開園し、160種類にもわたる動物を飼育している広島市安佐動物公園。レクリエーションや教育の場としてもおなじみですが、この場所でもボランティアの皆さんが活動しています。

安佐動物公園では、動物たちの情報をより身近に入園者に伝えるため、平成15年(2003年)に「ASA ZOOボランティア制度」を発足させました。これまで、第1期生と第2期生の2回募集が行われ、現在合わせて38人のボランティアが活動しています。ボランティアの皆さんは、5回にわたる養成講座を受講し、希望する動物の飼育実習などを経験しながら専門知識を身につけていきます。

活動の内容としては、安佐動物公園で飼育されている動物の解説が中心です。動物たちは普段でもさまざま

まだ発足して日が浅い「ASA ZOOボランティア」ですが、動物公園からのサポートの下、入園者に満足してもらえるように活動内容の拡大や内容の充実を図っています。来年度の募集は二応終了しましたが、興味がある人は安佐動物公園までお問い合わせください。

なドラマを見せてくれますが、一般には知られていない情報を入園者に伝えるのがボランティアの役割です。そのため、自分の担当する動物の話を飼育係の職員から聞くなど、普段から情報収集は欠かせません。さらに3カ月に1回ボランティアの例会が開かれ、職員による研修会や講義、ボランティア同士の情報交換などの自己研鑽も常に行っています。



「テンジクネズミの心拍数は?」3カ月に1回メンバーが集まり、動物についての研修会を行います

Information
広島市安佐動物公園
☎082-838-1111

ヒョウの前で解説するボランティアメンバー。全員、担当の動物が決まっています



絵本を通して子どもたちに伝えたい
おはなし会ボランティア

今回実習で初めて子どもたちの前で読み聞かせを行う森さん。読み聞かせの最も重要な要素である絵本選びにも熱が入ります。

A woman with short dark hair, wearing a white long-sleeved shirt and a dark skirt, is sitting on a yellow chair. She is holding a book titled 'The Little Prince' in front of her. The book has a colorful cover with a drawing of a prince and a fox. The background is a green chalkboard and a wooden desk.

なかった、子どもたちの反応に対応しながら本番を終えた森さんの表情には、優しさがあふれていました。

こども図書館の「ボランティア養成講座」からは、これまで多くのボランティアが誕生し、図書館や市



小

A woman in a yellow and white checkered shirt is leaning over a dark wooden table, holding a large clear plastic bottle. A young boy in a red sleeveless shirt and a white baseball cap is also at the table, holding a similar bottle. They appear to be participating in an activity involving water balloons. In the background, there is a green chalkboard and a whiteboard.

実験や工作を通じて、科学の楽しさを伝える

江波山気象館サイエンスボランティア

特に毎月開かれていたサイエンスワークショップ（工作教室）や実験広場は、ボランティア自らが企画立案し、当日の指導対応まですべてを行います。年に1、2回開かれる気象館の職員との打ち合わせ会でそれらのイベントのスケジュールを確認し、自分が担当するイベントを決めて、それぞれ関わってきます。ボランティアの養成講座が開かれることもあります。基本的には自分たちだけでテーマを決め、そのテーマに従って情報や知識を集めていきます。

皆さんの応募された動機はさまざまですが、共通しているのは「科学に対する好奇心が強いこと」です。ボランティアの塩成鏡（しおなりかがみ）さんは「お客様に楽

A photograph showing a female teacher in a dark blue shirt leaning over a desk to help a student. Several other students are seated at desks in the background, and a male teacher in a white shirt is standing nearby. The classroom has a modern, open-plan feel with large windows and light-colored walls.

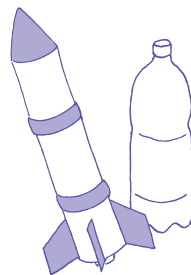
しんでもらうには、自分たちも楽しめることが大切」と、楽しそうにワークショップで工作指導をします。三村麻子さんも「学生時代に学んだ科学の面白さや楽しさを、子どもたちに伝えたい」と話します。

江波山気象館で体験できる実験や工作はどれも身近で親しみやすいものばかり。簡単なことなのに、ボランティアから説明を受け体験してみると、思わず誰もが「へえー」とうなずいてしまいます。

江波山気象館では、随時ボランティアを募集しています。資格は必要ありません。これまでに科学実験や科学工作の経験が全くない人でもOKです。科学実験や工作に興味がある方はぜひお問い合わせください。



空気を飛ばす「空気砲」の実験。ボランティアに教わって早速トライ!



らしく Vol.13—4